

2024年度 園評価		つくし保育園
保育方針	<ul style="list-style-type: none"> ・未来を担い生きる力となる子どもたちの全面発達を保障する努力をする。 ・保護者の労働を保障するとともに保護者がより良い条件で働き続けられるよう保護者とともに努力する。 ・保護者とともに子育てについて知恵を出し合い学び合い、子ども・保護者・保育者がともに育ち合う保育園づくりをめざす。 ・子どもの人権を守り地域の連帯の中で育て、地域の人々と力を合わせ保育条件の向上に努め、平和な社会を作る努力をする。 	
保育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・心身ともに健康な子ども ・自分で行動し考えることのできる子ども ・感動する心を持ち、豊かに表現できる子ども ・仲間の中にいることを喜び、仲間を大切にすること 	
実践・評価・反省		
<p>～心身ともに健康な子ども～</p> <p>○健康面では、主に0歳児に手足口病が定期的に流行ることが目立った。インフルエンザの感染が子ども・保育者共に拡大した。昨年度の反省でもあったが、今年度も事故が起こった際に見れていない現状からクラスに設置しているカメラを見返して状況を把握・検証することが多かった。個別で子どもと関わりながらも全体の様子を把握し、保育者一人ひとりが子どもの姿、子どもの行動を予測したり見通しを持ち、状況を感じ取って行動する力を土台に、事故や何かが起こる前に行動につなげることを意識したり、「誰かがやってくれるだろう」ではなく、自分がやるという一人ひとりが意識した行動で保育をしていけると良い。日々の保育を含めて、保育者間で連携を取りながら一人ひとりが考えて行動していくことが大事である。来年度の課題として、大きな事故につながるかもしれない”ヒヤリハット”をその時に報告して職員集団として共有できる書式を検討していきたい。</p> <p>～自分で行動し考えることのできる子ども・感動する心を持ち、豊かに表現できる子ども・仲間の中にいることを喜び、仲間を大切にすること～</p> <p>○今年度の夏祭りは、保護者参加型で行い、保護者も一緒に盆踊りを踊ったり練り歩きの応援をして盛り上がった。しかし、7月の気候、1日を通しての夏祭りは子どもにとって楽しさはもちろんあるが同時に夕方には疲れも見られた。保護者の意見も聞きながら、園としては何が大事かはブレずにやっていきたい。</p> <p>○5歳児の川遊びでは、例年尾白川で遊んできたが、時期的な水の冷たさ、安全面を考えフレンドパーク武川に変更した。子どもたちのやりたいことが実現できた環境でみんなで楽しむことができた。年々子どもの身体の使い方や子どもの姿も変わってきている中で、そのときの子どもたちの様子や経験させたいことを中心に考え合える環境や空気感を大事にしていきたい。</p> <p>○日々の保育では、どのクラスも目の前の子どもを見て、何が大事か、どんな力をつけたいか、そのためにどう関わっていくかを職員間で話して保育を計画して実践してきた。語り合うことができるのは同じ方向を見て保育をしている仲間がいるからこそできることなので、「この関わりがどういう力につながるのか、どう関わっていこうか」など、若手、中堅、ベテランのそれぞれの感じるもの、考えていることを語り合い、”つくしらしさを大事にした保育”や関わりを意識して保育していくことで今よりさらに一歩前進した保育者集団になると感じている。</p> <p>○今年度も2才以上児を中心に料理活動をクラスで計画して行ってきた。作る過程をみんなで楽しんで美味しく食べ、他クラスにもおすそ分けしながら美味しさも共有でき、子ども同士で「おいしかったよ」と自然と言い合える雰囲気や素敵だなと感じる。園全体でも、もちつき会、やきいも会、夏祭りの出店など子どもも大人も五感を感じて食を楽しむ味わうことができた。</p> <p>○今年度は年間通して園内研修を行ってきた。各分野を担当制にしたことで、忙しい中ではあったが資料作りで得た学びなどもあったように感じる。今後も共に学び合う環境を大事にしながら、保育を伝え合っていきたい。</p>		

2024年度 園評価 No2

実践・評価・反省

・今年度、リハ等に通っている子は7名、懇談を行い課題や手立てや成長を確認してきた。就学後も専門機関と繋がりをもっていくことや児童発達支援事業所等との並行通園を行っていくこと等について保護者の意向も含め話し合ってきた。年々療育や配慮が必要な子が増えているように思うが、安心して生活できる場所づくりや保護者の思いや悩みを聞き、一緒に考えていくことを大事にしていこうと確認している。

・今年度も、職員の長期病欠（心身）があり職員配置の変更を行ってきた。持病の悪化、保育の悩み、園児との関わり、保育の苦しさ、～でありたい願いや思うようにできないもどかしさ…等、理由は様々である。職員は何とか踏ん張り、保育を支えてくれているが数年続いている職員不足から、心身ともに疲労も溜まって来ている。そんな中でも支え合い、知恵を出し、話し合いながら保育に真摯に取り組み、工夫し新たな手段を見つけていく等、職員集団の高まりを感じている。身体が資本、無理はせず、自分を大事にしながらか働き続けられる職場とは…と日々、考えている。

・土曜保育の中で「誰かがやってくれるだろう…」ではなく職員一人ひとりが意識をして園舎内外の環境整備を行うことが定着し、子どもも大人も気持ちよく過ごせている。また、土曜勤務（専任）の先生方と確認しながら日々の保育の制作や子どもたちの描画のまとめ等、細かなことも手伝ってくれることがとても助かり、職員間の連携と全体でつくしの保育をしていると感じる。

・コドモン（ICT）を導入したことで朝の電話対応が減り、子どもに向かい合えたり、環境整備に時間を割けるようになった。保護者からの連絡、保護者への連絡等もわかりやすく、伝えやすくなっている。今後、日誌の活用やお便りの配信等いろいろ活用していくために担当分けをしながら学んでいるところである。

・少子化、保育者不足…、これからの保育現場はどうなっていくのか。保育園の存続は…、数年後を見据えて代を引き継いでいけるよう一人ひとりが運営の方にも目を向ける、伝えていく事に重きを置いていく。